

県南転換畑における晩夏まき短根にんじんの 品種について

1 試験のねらい

短根種による冬どり（1～3月）は収量や根形、色沢、肉質等の品質面はもちろんのこと、越冬性や春季までの継続出荷の可能性についての検討が必要である。

そこで、県南部の冬季比較的温暖な地帯を対象とし、これらの目的に適合した品種を選ぶため、昭和53年以降検討したので、その概要を報告する。

2 試験方法

下記のほかは当場の慣行耕種法による。

供試条件と耕種概要

項 目	年度	5 3	5 4	5 5	5 6
	は場	畑	畑	田	畑
品 種 数		12	12	26	20
は種期	月・日	8.25	8.28	8.25	8.25
収 穫	月・日	3/7・3/30	2/18・3/3	2/13・3/18	3/10
規 模	m ² ×区制	5.1×2	6.0×2	4.2×2	4.0×2

備考 畑は50年に水田を埋立（客土は表層30cm）した火山灰性壤土。
田は54年以降の転換畑で、細粒灰色低地土灰色系である。

株間10～12cmに間引した。施肥量はa 当たり窒素1.0 + 0.5kg（基肥と追肥），りん酸1.5kg，加里0.8 + 0.4kgを標準とし，追肥は間引直後に施用した。

3 試験結果及び考察

53・54年は暖冬で、生育は旺盛であり越冬は極めて順調であった。55・56年は12～3月の季節風が強く乾燥した日が続いた。しかし55年の供試は場では飛土が少なく、56年は培土を多く行ったことから、いずれも経過は順調と思われた。

53年には光輝400が根重大であり裂根が少なく有望、次いで黒田五寸、紅四寸、小泉冬越五寸がやや有望と思われた。54年には夏蒔早生五寸、紅四寸、関東寒越が有望であり、金港越冬五寸、T号冬越五寸がやや有望と認められた。これら両年の成績をふまえて、55年以降は市販の新品種を加えて検討した。その結果は図1のとおりである。

根重は年次及び品種間の差が大きい、概して光輝400、夏蒔鮮紅五寸、夏蒔金港五寸、夏蒔早生五寸、紅四寸等が大であり、紅福625、武光冬越五寸、T号冬越五寸等は小であった。上物率は55年に比べ56年が高まっている。55年は裂根、細根、岐根等の下物が多かったためであり、金港越冬五寸2号が両年とも最も優れた。夏蒔金港五寸に比べて両年を通じて多収を示した品種は金港越冬五寸2号、旭光夏蒔五寸であり、夏蒔早生五寸と光輝400は55年に、紅四寸は56年にそれぞれ収量が上回り、年次差があった。紅四寸、紅福625、夏蒔鮮紅五寸等が55年に特に低収であったのは裂根が多発したことによる。肉色は夏蒔鮮紅五寸、紅水五寸1

号，夏蒔金港五寸等は橙赤色が濃く，芯色は紅であり，夏蒔早生五寸は肉芯色とも橙が強かった。収穫時の細根は紅福冬越五寸，新座冬越五寸等がやや多く，夏蒔早生五寸，紅四寸，関東寒越は少なかった。この差は品種の早晩生や収穫時期にも関係があると思われる。また首部の青味が光輝400，紅四寸等でわずかにみられた。

4 成果の要約

転換畑を対象とした晩夏まき越冬栽培向けの適品種を選ぶため，4か年にわたり検討した。夏蒔金港五寸は良質多収で比較的安定した品種である。最近市販された品種では旭光夏蒔五寸金港越冬五寸2号が有望と認められた。

(担当者 佐野分場 塩谷民一)

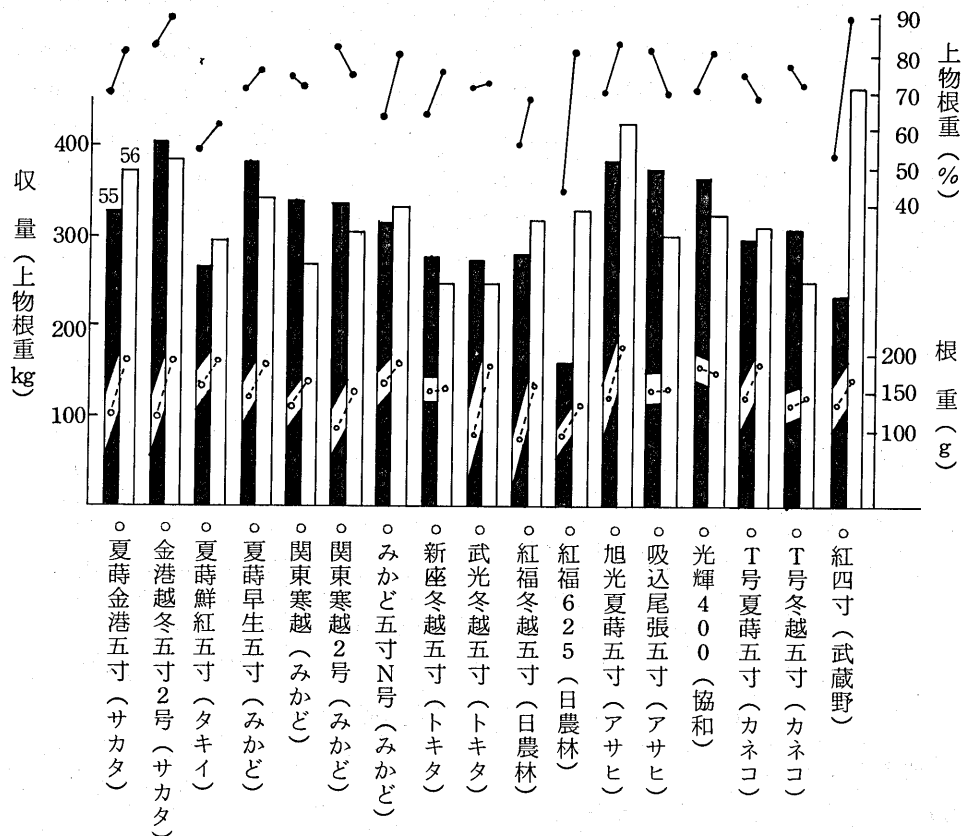


図-1 品種と収量 (昭55・56, a 当たり)